

交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

第3回 若手の集い「クラブ・ユース事業」とは

勉強会で仲間の熱量実感、 「負けられない」と思い新たに

地域交流牧場全国連絡会クラブ・ユース九州ブロック代表(大分県杵築市・酪農家) 田畑 修一

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)は2013年に「クラブ・ユース事業」を立ち上げました。対象者は40歳以下または就農5年以下の酪農家、関係者、大学生などで、年に一度、若手の集い(勉強会)を開き、意見交換や情報共有、仲間づくりを図っています。私はこのクラブ・ユース事業の九州ブロック代表を務めています。

発表会に登壇したことで参加者との会話弾む

私の牧場は畜産が盛んな大分県杵築市山香町の標高320mの山間にあり、酪農と和牛繁殖の複合経営です。経営の特徴は、粗飼料をほぼ自給で賄っていることです。生後8カ月齢までは購入乾草を使用しますが、その後のステージではわが家の圃場で収穫した粗飼料とWCS(ホールクロップサイレージ)を与えています。また、受精卵を活用した和牛生産に

も取り組んでいます。

就農してもうすぐ20年。12年前に酪農教育ファームの認証を受け、コロナ禍の前は年間500人ほどの消費者を受け入れていました。牧場体験では搾乳・哺乳や牛とのふれあい活動、バター・アイスクリームづくりなどを行っていて、学校での出前授業にも力を入れています。

クラブ・ユース事業に参加したきっかけは、九州生乳販売農業協同組合連合会の担当者から「クラブ・ユースの第1回全国研修会に出てみませんか」と誘いを受けたことでした。私はただ単純に面白そうだと思い、参加の意思を伝えました。その後、「研修会で発表する人を探しているのですが、九州で誰かいませんか」と聞かれ、せっかくだから何かやってみようと思ふことになりました。会場は東京大学。東大を訪れるだけで緊張したのに、発表までも。しかも他の発表者はブロック代表ばかりで、クラブ・ユースに加入したての私はかなり焦ったことを覚えています。

しかし発表したことで、参加者の皆さんの印象に残ったようで会話が弾み、意見交換をたくさんできました。多くの同世代の仲間が全国にできたことは、大きな財産となりました。懇親会では酪農について夜が更けるまで語り合いました。地元にも多くの若手酪農家がありますが、こんな経験はこの時が初めてだったと思います。午前2時頃まで続いたのですが、もう、



コロナ禍前の19年12月に開催したクラブ・ユース事業の「若手の集い第9弾! らくのうさミット in 新潟」



近年はオンラインを活用して全国の会員が集まり、勉強会を開催している

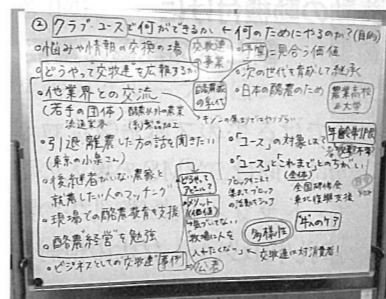
楽しくて楽しくて時間を忘れるくらい…。

その後、勉強会は北は北海道から南は熊本県までコロナ禍での2回のウェブ開催を含め計11回行われています。私はこのうち8回に参加。勉強会ではその都度、テーマに沿ったディスカッションがあり、牧場見学や先進地見学も行っています。ディスカッションでは地域や個人により考え方や飼養管理が違うため、多くの学びがあります。

そして何より熱量が“半端ない”のです。「あー、やっぱりみんな酪農が好きなんだな。負けられないな」と毎回思います。全国の同世代の酪農家や酪農関係者が熱い思いをぶつけ合う唯一の場所がこのクラブ・ユースだと思います。

気軽に集まれて納得いくまで話し合えるウェブ会議

ブロック代表になり3年がたちました。ここ2年はコロナ禍のため、勉強会とその内容を話し合う推進会議はウェブ開催としています。推進会議ではコロナ禍で何ができるか、どうしたら会員に楽しんでもらえるか、学びがあるかなどを各ブロックの代表で話し合います。ウェブ開催の良い点はオフラインよりも気軽に集まれて、納得いくまで話し合いができること。オンライン飲み会も、よく開きました。これはこれで楽しめましたし、個人的には大好きでした。20年度にウェブによる北海道、富山県、大分県の牧場見学、21年度に同じくブロック代表ミニ講演会とディスカッションを行いました。講演内容は「日本酪農の現状と課題」「SDGsと酪農」。夜の部の懇親会でも「乳成分、乳質と飼養管理」「農機の修繕」がテーマのミニ講演を行いました。



立ち上げ時にクラブ・ユース活動の目的や意義について議論した

若い力で新しいことに どんどんチャレンジを

クラブ・ユース事業が始まって今年で9年目になります。私は今年41歳になりましたので、卒業となります。これまでの8年間、多くの酪農家に出会い、刺激を受け学びました。

そしてたくさんの仲間ができました。これは一生の財産だと思います。全国の仲間が頑張っている姿を見ると心強さを感じます。

この8年間で酪農情勢は大きく変わりました。クラブ・ユースの活動もオンラインへとシフトしました。これからも情勢はどんどん変化していくでしょう。だからこそ、クラブ・ユースのメンバーには、この会員同士のつながりを大切に、仲間をたくさんつくってほしいと思います。若い力でどんどん新しいことに挑戦してください。楽しみにしています。

そしてまだクラブ・ユース勉強会に参加したことがない人は、まずは参加してみてください。怖くはありません(笑)。同じ思いを持った酪農家や酪農関係者が温かく迎えてくれます。これからの日本酪農のために、クラブ・ユースに参加して盛り上げていきましょう!



牧場の入り口に立つ田畑修一さん

牧場概要(たばた牧場)

代表者: 田畑 修一(41)
所在地: 大分県杵築市山香町広瀬2858-14
総飼養頭数: 乳牛約80頭(うち搾乳牛約50)、和牛繁殖20頭
年間生産乳量: 448 t
飼養形態: 放し飼い(フリーバーン)
飼料畑面積: 牧草12ha、WCS用イネ20ha、小麦(麦わら)40ha、水稲(稲わら)10ha ※牧草以外は耕畜連携
牧場スタッフ: 4人(本人、妻、父母)
交牧連加入年: 2010年
主な活動: 酪農教育ファーム受け入れ(年間約500人)、近隣の中小学校、施設への出前授業(年4回)

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
メール: koubokuren@churaku.jp
ホームページ: https://www.dairy-farm.jp/
フェイスブック: https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】